

ちいくりょく 地育力通信

～子どもと大人がふれあい
地域でたくましく育つ子どもたち～

第9号 2009年12月21日 発行

『おじいちゃんって呼ぶことにしたよ!』

～浜井場小学校 豊かな体験活動推進事業～

11月4日(水)の午後、飯田市南信濃木沢地区にある「旧木沢小学校」の校舎に、浜井場小学校の5年生が集まりました。

この日は、10月に台風で延期になった「豊かな体験活動推進事業」の第3回目。怪我の功名とは正にこのことでしょうか。雲ひとつない青空ととてもすばらしい紅葉のもとで、体験活動が行なえます。

今晚宿泊する農家の皆さんとの対面式では、目を輝かせた子どもたちが座って待っています。7月に、上村下栗地区での農業宿泊体験を経験している子どもたち。その時の感動が、心に残っているのでしょう。

「今日明日の宿泊体験、楽しみな人～?」

という先生の質問に、「はいっ!!」誰一人遅れることなくピタッと一斉に手が上がりました。

対面式を終えると、早速各農家に3～4人ずつ分かれて移動です。見送る先生たちに「バイバイ!」と元気良く手を振って出発して行きました。



木沢地区にある瀧浪さんのお宅には、4人の男子児童が体験させていただきました。

みんなで大根の畝に、肥料を撒く作業をしています。畑の東側には、見渡す限り紅葉した山々が連なり、あまりに奥深い溪谷に今にも吸い込まれそうです。子どもたちは、作業の

合間にこの絶景に見惚れていました。

子どもたちの様子を見に来た先生方も、子どもたちよりも景色に気持ちが向いてしまうほど。少しの間、カメラが違う方向に向いていました。

飯田の中でも比較的繁華街に住んでいる浜井場小学校の子どもたちにとっては、「別世界」での体験となったことでしょう。

大沢さんのお宅からは、何やら狼煙が上がっています。

近づいてみると、落ち葉を集めて焚き火をしていました。中には、収穫したばかりの



のサツマイモが入っているとのこと。夕飯のときにはホクホクの焼き芋が食べられそうです。

今晚の夕飯のメニューは「五平餅」。

子どもたちは、五平餅を焼くための炭火を一生懸命おこしていました。

「大沢さんのこと」おじいちゃん”って呼ぶことにしたよ!」

子どもたちが、うれしそうに教えてくれたときの、大沢さんの笑顔がとても印象的でした。

遠山地区は、飯田市街から人里離れた中山間地にあります。過疎化が進み、現代の便利社会とはかけ離れた生活環境にあります。ゆえに、ここで生活する人たちの生き方は、便利社会の中で生活している子どもたちに衝撃と感動を与えてくれるはずです。

この日の夜は、農家の皆さんからたくさんのお話を聞いたり、霜月祭の笛の練習などをして、いつもより少しだけ夜更かしをしたかもしれませんね。

12月1日(火)に行なわれた南信濃地区中立正一位稻荷神社の霜月祭では、35人の児童が大活躍しました。その様子は次号で紹介します。



『お手伝いではない、自分の仕事』

～ 鼎中学校2年生職場体験記～

11月10日(火)～12日(木)までの3日間、飯田市内の中学校では本年度最後となる職場体験学習で、私どもの飯田市教育委員会に訪れているのは、鼎中学校2年生のM君とO君です。

M君は、「結いジュニア・リーダー」育成講座のメンバーです。

「結いジュニア・リーダー」のメンバーたちには、来年1月に予定している「飯田市キャリア教育推進フォーラム」で、この講座の取組みや各校の特徴的な取組みなどの実践発表をしてもらうことになっています。

M君は、7月に実施した農家宿泊体験について発表することになっているため、その資料作りを中心に仕事をしてもらいました。これは、私たち教育委員会の仕事の「お手伝い」ではありません。まさにM君自身の「仕事」そのものです。

M君は、体験したときのことを思い出しながら、実際に体験した内容、体験前のイメージ、体験してみて印象に残ったことなどをスラスラと簡潔にまとめていきました。

その後M君には、生涯学習・スポーツ課がどのような仕事をしている部署なのか理解してもらうために、私たちの”地育力向上係”の会議に出席してもらい、「係の一員」となっていました。



初日の夕方には、私たち教育委員会の職員と一緒に「青少年健全育成強調月間」の啓発活動にも参加してもらいました。

M君もO君も、JR 鼎駅の正面に立ち、次々に現れる高校生や大人の人たちに、

「青少年健全育成にご協力を！」

「今度の日曜日は結いの日です！」

などと声をかけながら、「結いタイム」のロゴ入りティッシュを配ってくれました。知らない人に声をかけることは、中々勇気がいることですが、二人とも積極的に動いていました。

最終日の3日目には、同じ鼎中2年生が職場体

験をしている他の事業所の取材に、M君と出向きました。

取材させていただいた事業所は、県にあるヨシザワ印刷(株)さんと松尾にあるほっ湯アップルさんの2箇所です。この取材は、「職場体験の持つ意義や大切さを広く伝えること」が目的です。そのことだけをM君に伝え、質問項目も自分で考え、そして取材し、自ら記事を書いてもらいました。



(以下、M君が取材した記事です)

11月10日から11月12日の期間で行われた鼎中学校二学年の職場体験。

この3日間の職場体験を生徒達はどう考えているかを、ヨシザワ印刷さんとほっ湯アップルさんで職場体験をさせていただいている生徒と職場体験先の方に取材してきました。

ヨシザワ印刷さんで職場体験させて頂いているMさんと従業員さんにインタビューをしてきました。年賀状のイラスト作りをしていたMさんにくっかの質問をしました。

職場体験前、不安なことがありましたか？と質問すると、「挨拶がしっかり出来るか不安でした」と答えました。

最終日の今日はしっかりとできていますか？と聞くと「しっかりできています」と自信溢れる笑顔で答えました。

“結い・トライ・アングル”

飯田市キャリア教育推進協議会は、
飯田型キャリア教育を推進しています。



Mさんに働く事とはどういうことだと思いますか？と質問すると、「生きる目的を見つけることだと思います」と迷わず答えました。

職場体験の感想をお聞きすると、「自分の将来について考えることができよかったと思います」とお答えいただきました。

従業員さんに、生徒の様子はどうでしたか？とお聞きしますと、「熱心に聞いて、熱心に仕事していてとてもいいです」とお褒め頂きました。

ほっとアップルさんで職場体験させて頂いているK君とNさんにも取材に行ってきました。フロントで働いているNさんとK君にもいくつかの質問をしました。

体験前の不安はありましたか？と聞くと、K君は、「どういう仕事をするのかが不安だった」と答え、Nさんは、「職場になじめるかが不安でした」と答えて頂きました。



体験してからの自分に変化はありましたか？という質問にK君は、「しっかり挨拶ができるようになりました」。Nさんは、「挨拶や態度のように大切なことをしっかりできるようになりました」と元気な声で答えて頂きました。

支配人の方からも「きちんと挨拶ができる子達とお客様も喜んでいきます」とお褒め頂きました。

生徒達は、職場体験を通して働く事とはどういうことか、働く事には、何が大切かを学んだと思います。職場体験で学んだ事をこれからの生活に生かして行ってほしいです。

ヨシザワ印刷の従業員さんは、M君の「働いていて喜びを感じるのはどういうときですか？」との質問に、「うちで製作したシールや箱などの商品が売れて、その会社に喜ばれたとき！」と元気に答えてくださいました。

ほっ湯アップルの支配人さんは、「いい風呂だった！キレイな風呂だった！とお客さんに喜んでもらったときだよ！」と笑顔で答えてくださいました。

フロント業務を担当していた鼎中のNさんも、「フロントに立っていて、お客さんに声をかけられたことがうれしくて印象に残っています」と。

人は、他人に喜ばれると、とてもうれしい気持ちになり、意欲が沸いてきます。そして、益々いい仕事ができるようになり、それがやがて「やりがい」を感じるようになるのだと思います。

「やりがいのある仕事など初めからあるものではありません。やりがいは、自分で作るものです」とおっしゃった方がいますが、改めてそのとおりだと感じました。

M君も、自分の仕事に「やりがい」を感じたのではないかと思います。

飯田市キャリア教育推進フォーラムのご案内

皆さん、「働くことの本当の意味」について考えたことはありますか？

著書「私が一番受けたいココロの授業」で有名な、ウエジヨビの“比田井和孝先生”に、働くことの本当の意味について本気で語っていただきます。

今年度飯田市教育委員会が実施してきた、各中学校代表生徒が集結した「結いジュニア・リーダー育成講座」のメンバー9名が、実践発表、司会進行などに大活躍します。大勢の皆様のご来場お待ちしております！

日時：平成22年1月23日（土）13：30～16：30

会場：松尾公民館ホール

内容：

- ・活動発表（結いジュニア・リーダー9名）
「働くこと・学ぶこと・生きること」
- ・比田井和孝講演会
「何のために働くのか」



入場無料。事前申込が必要です。

申し込みは、「地育力どっとネット」からどうぞ。

『道路が草木染め作品のギャラリーに』

～ 草木染めの達人に弟子入り～

朝まで降り続いた雨も上がり、鼎の切石にある「科野（しなの）草木染工房」で草木染めの親子体験講座が開かれました。講師は、工房の稲垣昭吾さんご夫妻。この日、弟子入りしたのは7組の親子17人です。



工房を見学させていただいた後、草木染めのやり方について説明を聞きました。今日の体験は、「藍」と「茜」の染め液を使って白色の布を染めることです。染め方は「絞り法」です。稲垣さんから説明がありました。

「この模様を作るには、布の端を輪ゴムで巻きまます。巻いた部分は、染料が染みこまなくて白っぽい模様になります。割り箸で布の両側を挟み輪ゴムを巻くと、挟まれた部分は白くなります。」

さて、一人一人に白い布が用意されました。ハンカチサイズの大きさです。輪ゴムと箸を使いながら、一人一人が絞りを考えていきます。一番人気のあった絞りは、割り箸を十文字に組み合わせる「手裏剣型」。箸が布から浮かないように輪ゴムをきつく巻きます。輪ゴムだけで絞りを考えた友達もいましたし、輪ゴムと割り箸を組み合わせ、絞りを考えた友達もいました。

次は、いよいよ染料を使って染める作業。最初は「茜」です。茜の根から採れた染料を水の入った鍋に入れて温めます。染料をよく溶かすためには、常に水をかき回さなくてはなりません。次第に水が温められ、染料が広がっていきます。そして、85 になったところで白い布を入れました。しばらくは、お湯の中に漬けておきます。

茜染めは、漬けておくのに多少時間がかかるので、今度は藍染めに挑戦です。こちらは、既に出来上がっている染め液の中に白い布を入れます。液の中に入れること約5分。藍色に染まってきたところで液から出します。そして、巻いてあった輪ゴムや割り箸を外し布を広げます。さて、いよいよ楽しみの瞬間です。どんな模様ができているのでしょうか。

「わっ、面白い形。こんな形になるんだ」

「四角い模様がたくさんできた」

「竹みみたいな模様になった」

と、感動の声が上がります。稲垣さんから

「立派、立派、いい模様ができた。その模様の作り方をおじさんに教えてもらいたいな」

と、お褒めの言葉が。周りで見えていたお父さんやお母さんも、

「楽しそうな模様ができだね」

「きれいな色に染まったね」

と嬉しそう。布を広げ着色するのを待ちます。

そして、軽く水洗いをしてから乾かします。稲垣さんの家の前の道路脇に、乾かす場所があります。一人一人が染めた布を順番に干していきます。雲の隙間から、温かな陽が差しています。

そのうちに茜染めも、布に色がついてきました。藍染めと同じように、鍋から布を取り出し輪ゴムや割り箸を外し布を広げます。薄い茜色に染め上がりました。茜で染めた布の色は、おだやかで自然を感じさせるやさしい色あいです。

そして、道路脇に全員の作品が並びました。まるで草木染めのギャラリーのようです。天然染料で染めた色は移ろいやすいけれど、移ろう色を眺めるのも風情の一つです。

温かな日差しを浴び秋風に揺れながら、「藍」と「茜」が生地にしっかりと馴染んで落ち着いた雰囲気を出してく



れています。植物や樹木の命が布に吹き込まれ、私たちに温もりを感じさせてくれます。

古代から伝わる草木染め。昔の人と同じ天然染料を使い同じ方法での染め方に、古代へのロマンを感じた親子も多かったのではないのでしょうか。

(お詫びと訂正)平成21年7月17日発行の前号は、第9号となっていました。第8号の誤りでした。今回が第9号となります。お詫びして訂正いたします。

編集・発行：飯田市教育委員会

生涯学習・スポーツ課 地育力向上係

TEL 0265-22-4511 (内線3571) FAX 0265-22-7969

HP <http://chiikuryoku.net> (地育力どっとネット)

E-mail shougai@city.iida.nagano.jp